

(仮称)仙台市ダイバーシティ推進指針(中間案)に関する パブリックコメントの実施結果について

● 実施概要

(1) 実施期間

令和6年10月22日(火)から令和6年11月25日(月)まで

(2) 提出方法

郵送、ファックス、電子メール、持参等

(3) 周知方法

市役所本庁舎市政情報センター、宮城野区・若林区・太白区情報センター、各区役所・総合支所等における中間案の閲覧及び配布、市ホームページへの中間案の掲載、市政だより11月号での周知を行った。また、関係団体等との意見交換を実施したほか、11月16日(土)開催の仙台ダイバーシティフェスタ2024を通じて周知を図った。

● 意見提出件数

98件(59名・団体)

項目	件数
指針全体に関するご意見	22件
基本的理念・視点に関するご意見	53件
推進体制等に関するご意見	5件
その他のご意見	18件
計	98件

● 意見の概要と本市の考え方

指針全体に関するご意見:22件

No.	意見の概要	本市の考え方
1	ダイバーシティは企業活動を継続していくためには絶対必要。人口減少により働き手が減少し、市場も縮小する中で、自分ごととして捉えていかなければならない。人を選んでいる時代ではなく、すべての人をエンパワーしていかなければならない。	人口減少や少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、都市が持続的に成長するには、誰もが活躍できる環境の整備が必要であると考えています。推進指針に基づき、さまざまな施策に取り組んでまいります。
2	障害者や男女といったことに過剰に反応するのではなく、一人一人を尊重することが大切。逆に過剰にしすぎると本人も遠慮してしまう。	一人一人にどのような価値観や意見・考えがあり、ニーズがあるのかを理解しようとし、互いに尊重されることが重要であると考えており、中間案においても視点2に位置づけています。いただいたご意見なども参考にしながらダイバーシティまちづくりを進めてまいります。
3	ダイバーシティという言葉は分かりにくいところがある。一人一人理解した人間が増えて伝達していく、仲間を増やしていくことに限ると感じている。ダイバーシティについての取り組みに対しては、欧米のファッションブランドは敏感になってきており、将来的には取引する際の判断基準のひとつになるかもしれない。	ダイバーシティまちづくりの推進にあたっては、一人一人がその考え方を理解することが重要であり、また、企業の競争力強化に向けてもダイバーシティの取組みの必要性が増してくるものと考えています。周知啓発事業等の実施により市民の皆様、事業者の皆様の理解促進に努めてまいります。

指針全体に関するご意見:22件

No.	意見の概要	本市の考え方
4	<p>「政宗の遣欧使節」「東北大の女子学生」といったダイバーシティを地で行く仙台市の開明的な風土を大事にしたい。ダイバーシティは個々の施策やイベントの成果測定が難しい領域だが、施策を実施すること、参加することで、誰しもが築いている「無意識の壁」により多くの職員が気付くこと、それを意識して活動できるようになることがまず大事だと考える。</p>	<p>ダイバーシティまちづくりの推進にあたっては、職員一人一人がその考え方を理解することが重要と考えています。研修機会の充実等により職員のダイバーシティへの理解を深める取組みを進めてまいります。</p>
5	<p>社内でもダイバーシティを進めているが、近年はBelongingということで、精神的な安全性の確保や愛着といったことが大事だと思う。社員一人一人がダイバーシティについて語れるようになることが大切。調和というのは時間がかかるものであり、根気強くやっていく必要がある。</p>	<p>ダイバーシティまちづくりの推進にあたっては、一人一人がその考え方を理解することが重要であり、息長く取組む必要があると考えています。研修機会の充実等により職員のダイバーシティへの理解を深めるとともに、各種啓発事業を通じて市民理解を進めてまいります。</p>
6	<p>ダイバーシティ推進の流れを受けて、既にジェンダーの問題が解決したという声もあり懸念している。ジェンダー課題の解決はダイバーシティ推進に欠かせない視点である。</p>	<p>ダイバーシティの推進において、男女共同参画は主要なテーマの一つと考えています。「男女共同参画せんだいプラン2021」に掲げる、性別にかかわらず、多様な生き方を自ら選択し、その能力を十分に発揮できる男女平等のまちの実現を目指し、各般の取組みを進めてまいります。</p>

指針全体に関するご意見:22件

No.	意見の概要	本市の考え方
7	新しいものが入ってくるときには調和の前に衝突があるのではないかと。人は一人ずつ違いがあり、それを生かして社会が発展してきた。「なくてはならないちがいを守る」とあるが、守りすぎると意見が対立し平行線になってしまうのではないかと。	多様な人々の対話・交流に際しては、意見の衝突や対立が生じる場合があり、それを乗り越える中で調和が図られていくものと考えています。いただいたご意見も参考にしながら、研修機会の充実等により職員の理解が深まるよう取組んでまいります。
8	中間案において、ダイバーシティ推進による大学や経済への繋がりや影響については多く記載されているが、仙台市の特徴として「市民協働」を掲げて「市民」を大きく取り上げているのであれば、ダイバーシティ推進が(市民不在とならないように)市民や市民生活にこのような好影響、効果があるということを伝えてほしい。	ダイバーシティまちづくりの推進により、地域につながるや支え合いを育み、安心して住み続けられる環境へとつながると考えています。こうした趣旨が伝わるよう記載内容を検討いたします。
9	これまでも指針にある「歴史・文化や都市個性への誇りと愛着を土台とし、これを尊重しながら仙台にふさわしい多様で調和のとれたまち」を目指して取り組んできたと思っている。なぜ今、仙台らしいダイバーシティを進めようとしているのか。	人口減少や少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、都市が持続的に成長するには、誰もが活躍できる環境の整備が必要であると考えています。市民の皆様とともに育んできた共生のまちづくりは本市の強みであり、これを生かし、ダイバーシティまちづくりを進めたいと考えています。
10	人にやさしいまちづくりをさらにさらに深化させていこう。	誰もが安心して住み続け、活躍できるまちを目指し、推進指針に基づき、さまざまな施策に取り組んでまいります。

指針全体に関するご意見:22件

No.	意見の概要	本市の考え方
11	抽象的すぎて分かりづらい、本当に市民から求められているものをつくってほしい、子どもの屋内あそび場など。障害のある子も遊べるとさらによい。	推進指針は本市のさまざまな施策を検討・実施する際に盛り込むべきダイバーシティの視点等を取りまとめるものであり、具体的な取組みについては、今後、内容の解説や事例等をまとめた資料の作成等を検討してまいります。その他いただいたご意見については、関係部局の連携のもと、取組みを検討する際の参考とさせていただきます。
12	文化秩序(日本古来)を守りつつも“ちがい”(多様性)を受け入れつつとのバランスで“はきちがい”の無い様、お題目ばかりにならない様に。	仙台の歴史・文化・都市個性を尊重したダイバーシティ推進が重要であると考えており、中間案においても基本的理念に位置づけています。いただいたご意見なども参考にしながら、調和のとれたダイバーシティまちづくりを進めてまいります。
13	意義深い話が分かりやすく表現されており、すばらしいと感じた。	仙台らしいダイバーシティまちづくりの推進に向けて、推進指針の策定を進めてまいります。
14	市としての推進等をうたうのであれば、それが「誰」によって策定されたのか、その中のメンバーに「ダイバーシティ」はあるのかも合わせて見たかった。	推進指針の策定にあたっては、多文化共生、福祉、男女共同参画等の学識経験者、実業家等で構成される仙台市ダイバーシティ推進会議で議論をいただいております。委員の人選にあたっては、年齢・性別・国籍など多様な皆様に就任いただいたところであり、推進指針の資料として委員名簿等を追加いたします。
15	ちがいを認め合う地域の実現に寄与するものになってほしい。	誰もが安心して住み続け、活躍できるまちを目指し、推進指針に基づき、ダイバーシティまちづくりを進めてまいります。

指針全体に関するご意見:22件

No.	意見の概要	本市の考え方
16	<p>ボランティア活動で活躍されている方々がさらに増え、この取り組みが広がっていくことを願っている。同時に、このような素晴らしい活動が継続可能となるよう、収入面でのサポートや仕組み作りも進むと良い。</p>	<p>ダイバーシティまちづくりについては、ボランティア団体を含め多様な主体との連携が重要と考えており、基本的理念等にも位置づけています。いただいたご意見につきましては、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
17	<p>「ちがい」という言葉をキーワードに据えて最前面に押し出し強調している理由が全く理解できない。なぜ多様性ではなく「ちがい」としているのか明確な説明が必要だ。国の指針や他自治体・企業・大学などのダイバーシティの計画をいくつか検索してみたところ、違いという言葉を用いているものは見当たらなかった。「いろんな人がいる」ではなく「人とあなたとは違う」「あなたは人とは違う」と訴えかけるのが正しいとは思えない。ダイバーシティの趣旨と反していると言う以外ない。「多様である」という言葉は、対象を肯定的に評価しており、否定的には見ていないニュアンスが明確にある。一方、「違う」というのは他者との相違を強く意識させ、価値観の違いによっては相手を否定し、分断を生み出しかねない危険な言葉である。仙台市はアメリカのトランプ政権下で生じた分断社会を目指しているのか？</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>	<p>人口減少や少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、都市が持続的に成長するには、誰もが活躍できる環境の整備が必要であり、本市の歴史や文化、都市個性を踏まえ、調和のとれた仙台らしいダイバーシティまちづくりを進めたいと考えています。中間案における「ちがい」という表記につきましては、多様性、つまり一人一人に違いがあることをプラスに捉えるという意味を込めています。ご指摘の点につきましては、ご意見として受け止めさせていただきます。</p>

指針全体に関するご意見:22件

No.	意見の概要	本市の考え方
17 続き	<p>この課題に本気で取り組む気概があるなら平仮名で「ちがい」と茶化し、言葉遊びのようなことはすべきではない。そういう計画を作ることこそが「仙台らしい」という言葉を体現しているとは思いたくない。仙台市ダイバーシティ推進会議の委員名簿を見ると、それなりの肩書の方も名を連ねているようだが、本当にこの中間案でいいと思っているのだとしたらたかが知れていると言わざるを得ない。仙台市はダイバーシティを本気で理解しているのか甚だ疑問だ。残念であるし、中間案とはいえ既に発信されてしまっているものの、このような内容で計画を決定してそれが世界に発信される可能性があると考え、一仙台市民として非常に情けなく恥ずかしい。仙台市という都市の尊厳を損なわないためにももう一度ダイバーシティの意味するところをよく検討し、計画案を見直すべき。</p>	(p7に記載)
18	<p>多様性の推進には慎重であるべき。「多様性」という言葉が用いられているが、その実態は特定技能外国人の受け入れや、実質的な移民政策の拡大を意図したものではないか。外国人労働者の増加は社会の分断を招きかねない。その結果、従来からの市民が享受してきた安全性、安定性、そして安心感が損なわれる恐れがある。</p> <p>(次ページへ続く)</p>	<p>ダイバーシティをめぐる背景や状況は各国で異なり、世界ではさまざまな事例があるものと存じます。ダイバーシティまちづくりの推進においては、市民の皆様の安全・安心を基本としながら、誰もが安心して住み続け、活躍できるまちを目指し、取り組みを進めてまいります。ご指摘の点につきましては、都市政策としてのダイバーシティ推進に関するご意見の一つとして受け止めさせていただきます。</p>

指針全体に関するご意見:22件

No.	意見の概要	本市の考え方
18 続き	<p>こうしたリスクに真剣に向き合い、これまで築かれてきた平和で安定した仙台を維持するための適切な政策を慎重に検討する必要がある。外国人受け入れが主目的ではないと主張されるかもしれないが、現在の仙台に何か重大な問題があるのか。誰かが深刻に困っているのか。すでに多くの人々が「安心して住み続けたい」と感じる街になっているのではないか。これ以上、何を「活躍」しろというのか。こうした多様性推進の議論は、もっともらしい理屈を並べ立てているようにしか思えない。多様性を推進することが成功につながるとは限らない。むしろ、世界各地で多様性の推進が混乱や対立を引き起こしている事例が多く見られる。「多様性」という名目の下で実質的に移民や外国人労働者を受け入れることは、最終的に永住外国人の増加を促進し、社会の安定に悪影響を与える恐れがある。無理に多様性を推進する必要はない。既存の仙台の強みを活かし、必要に応じて悪い点を少しずつ改善する方が現実的だ。過剰な国際化や無駄な税金の投入は避け、仙台の実情に即した政策を慎重に進めることが重要。短期的な利益や安易な解決策に惑わされることなく、長期的な安定と安心、安全を最優先に考えるべきだ。以上の理由から、ダイバーシティ推進には反対し、指針の破棄を求める。</p>	<p>(p8に記載)</p>

指針全体に関するご意見:22件

No.	意見の概要	本市の考え方
19	<p>1 多様性(ダイバーシティ)を踏まえた行政に異論は無いがパブリックコメントに何を期待しているのか分からない。多様性を踏まえた行政を目指す市長が職員に指示し、市政だよりにその旨を載せれば良いのでは?良識を弁えた市民は指針が繰り返し言及する「違い」を受け入れ、既に理性のもと行動している。</p> <p>2 指針の記述については「違いを認識し、受け入れ・・・」を推進すると人材が集まり投資が増えるとする因果関係が定性的な記述のみで定量的な記述が見えない。数年後、多様性推進で人材が増え投資が増えたと数値で示す事が出来るのか?ダイバーシティ推進会議開催の繰り返しで貴重な職員の脳力と時間を費やすより「先送り出来ない」課題に時間を割くべきでは?</p> <p>3 11月6日付け河北朝刊に財源不足3747億の記事が載り不足の一因として音楽ホール建設が指摘された。県民会館と市音楽ホール、仙台市の規模で客席2万人ホール2箇所は不要とする意見や県・市二重行政の批判をものともせず建設推進、その後の管理維持費も膨大で年間10億前後の赤字を見込むらしい。音楽ホールを延期し財政建て直しを優先するべき。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>	<p>推進指針は本市のさまざまな施策を検討・実施する際に盛り込むべきダイバーシティの視点等を取りまとめるものであり、市民の皆様の生活にも関連が深いことから、パブリックコメントを実施いたしました。そのほかの市政に関するさまざまな点については、ご意見として承ります。</p>

指針全体に関するご意見:22件

No.	意見の概要	本市の考え方
19 続き	<p>また仙台市は人口100万人割れ間近でこの対策も喫緊課題だ。同紙によれば青森県は「出生率2.0を目指す」とし具体的な数値目標も示しており施策の手本だ。小中高生の不登校・いじめ、令和50年には全世帯に占める一人暮らし世帯は50%に迫り、大卒地元就職率低下、働きたい仕事が無く大都会で就職するなど、個別課題毎に対応策・数値目標を示し訴える方が市民は納得し易い。</p> <p>東北活性化は仙台市活性化に繋がるが例えば首都機能移転、1990年衆参両院で「国会等の移転に関する決議」をし1992年「国会等の移転に関する法律施行」、1999年には「移転候補地3地域」を決めた。しかし関東以西の議員が多数を占める国会は移転候補地北東(栃木福島)優勢を嫌いこの25年間審議を放置、不作為を極めていいる。移転は巨大地震による首都機能麻痺を危惧して法律施行されたもので地震発生確率は25年前より格段に増している。また第3次世界大戦も想定される今、大深度地下壕を備えた立法・行政・司法関連施設の建設が必須だが東京都内では建設不可だ。広大で安定した台地が広がる北東が適地なのは言うまでもない。</p> <p>(次ページへ続く)</p>	(p10に記載)

指針全体に関するご意見:22件

No.	意見の概要	本市の考え方
19 続き	<p>現内閣は元地方創生の石破首相、自民政務調査会長は地元小野寺五典氏、ご両人は防衛行政・大規模災害行政に造詣が深く大深度地下壕の必要性も先刻ご承知の筈。県とタッグを組み東北六県・栃木県に加えて北海道も入れて首都機能移転推進に動くのは如何か？北海道を引き込むには次の次の移転先は北海道と約束する。首都機能移転が仙台市躍進に計り知れない果実をもたらすのは確実だ。</p>	<p>(p10に記載)</p>
20	<p>6ページの(3)ダイバーシティの効果について、ダイバーシティの推進にはさまざまな効果がある、誰も取り残されないまちづくりは市民の地域への愛着や参加意識を高める、都市の持続的な成長につながるなどと書かれているが、そもそもそれらの明確な根拠はどこにあるのか？</p> <p>“誰も取り残されないまち”とは具体的にどんなまちなのか？それはどこかで実現されているのか？それはどこなのか？実現もされていないなら、何を根拠にこの効果を謳うのか？誰も取り残さないまちを作らなければ、持続的な成長は不可能なのか？そう断ずる根拠は？非常に曖昧な、抽象的で楽観的希望的感想で税金を浪費されても困る。具体的な例と根拠を示すのが当然と考える。誰も取り残されない、という「誰も」は何を指すのか？住民票が仙台市にある人という意味か？</p> <p>(次ページへ続く)</p>	<p>ダイバーシティをめぐる背景や状況は各国で異なり、世界ではさまざまな事例があるものと存じます。ダイバーシティの推進により目指す都市の姿は、その都市の持つ歴史的・文化的な背景や、時代によって変化するものであると考えており、本市といたしましては、仙台の歴史・文化や都市個性を尊重しながら、仙台にふさわしい多様で調和のとれたまちを目指して実践を重ねる、仙台らしいダイバーシティまちづくりを進めたいと考えています。また、ハラル等の多様な食文化に対応した新メニュー開発支援は、ダイバーシティの観点だけでなく、インバウンド等を視野に取組む民間事業者を支援するものであり、地元事業者支援の側面からも取組んでいるものです。その他のさまざまなご指摘につきましては、都市政策としてのダイバーシティ推進に関するご意見の一つとして受け止めさせていただきます。</p>

指針全体に関するご意見:22件

No.	意見の概要	本市の考え方
20 続き	<p>曖昧模糊とした表現ではなく、明確な線引きを示すべき。指針とはいえ、すべてが抽象的で根拠不明であることについて、市の職員のどなたも疑問を持たれないのか？</p> <p>7ページに(5)仙台らしいダイバーシティまちづくりとして、①多様性を受容する といきなり書かれているが、なぜ受容ありきなのか？国籍やLGBTについても5ページの「違い」の図に書かれているので、それらの違いも受容せよという指針と理解するが、欧州などではそのように他国籍の人や文化を楽観的に受け入れ、結果として文化衝突や犯罪増加など、問題が噴出している現実がある。また、LGBTについても同様である。自己申告による性別を採用した結果、どれだけの問題が世界中で起きているか、まさか市の職員の方々が一切ご存知ないわけがない。現実の問題を無視して、一方的に①多様性を受容する などと押し付けられるのは行政による暴挙である。冒頭で非常に曖昧な耳障りのいいふんわりとした目標を掲げ、現実の事象を無視したまま、問題が起きることが明白な施策を根拠なく目指さないでいただきたい。</p> <p>9ページにマジョリティ側に必要な説明や周知を行うとしているが、受容ありきでの説明や周知であるならこれもまた行政による暴挙である。</p> <p>(次ページへ続く)</p>	<p>(p12に記載)</p>

指針全体に関するご意見:22件

No.	意見の概要	本市の考え方
20 続き	<p>仙台市に住む日本人のための都市が「仙台」であるということ、市にはくれぐれも見失わないでほしい。</p> <p>10ページにハラルなどの新メニューに取り組んでいるとされているが、ハラルは宗教食であり、現行憲法の原則である自治体の政教分離に反する。仙台は仙台市に住む日本人のための都市であるはず。公然と特定宗教の後援を謳い、仙台市は一体何を考えておられるのか？</p> <p>11ページの②対話・交流の場をつくる において、国籍等にも関わらず、誰もが参加できる～などと書かれているが、他国籍の人々の声が市政に反映されるべきということか？なぜ？仙台市は外国からの干渉を率先して受け入れるということなのか？繰り返しになるが、なぜ仙台市は日本以外の国の人々の声による干渉を受け入れるべきと声高に呼び掛けるのか？仙台市は日本の都市である。指針全体として、根拠薄弱な左翼的グローバリズム思想に基づいた方針・施策の羅列であると感じる。仙台市は日本の都市であり、主たる納税者たる日本人のために資するという視座がなく、多様な～などという文言の下、他国の人や文化や思想の流入の促進施策としか思えない。</p> <p>(次ページへ続く)</p>	(p12に記載)

指針全体に関するご意見:22件

No.	意見の概要	本市の考え方
20 続き	<p>世界において多文化共生が成功した例はなく、またこれを読む限り成功すると確信するに足る明確な根拠も示されていない。他国で現実に行っている問題を省みることなく、カタカナの言葉を多用し、耳障りのいい言葉を並べ、このような曖昧模糊としたりべラル色濃厚な施策を目指す仙台市のあり方に非常に危うさと不信を持つ。</p> <p>仙台市は日本の都市である。仙台市は、世界の現実を正確に把握したうえで、日本人のための施策をしっかりと行ってほしい。</p>	(p12に記載)
21	<p>多様性を「広げること」も必要だが、それを発揮できるように「集約していくこと」が必要と考える。仙台市にも許容できる活動量というものがあるかと考える。もはや少子高齢化を止めることは不可能であり、今後人口減少がより加速していくことが明白だ。現在東北の都市としての仙台の魅力は維持している状態だが、人口減少と共に都市化している地域への流出が進むことは目に見えている。現在の広域での行政は維持不可能と考えるので、計画的に公共事業運営の見直しが必要になってくる。移民による労働人口の補填をするにしても、まずインフラの老朽化により移民の安全で快適な生活環境を用意することも不可能だろう。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>	<p>誰もが安心して住み続け、活躍できるダイバーシティまちづくりを進めるにあたっては、魅力的でアクセスしやすい公共空間の整備や都市インフラの確保も重要であると考えており、中間案においても視点3に位置づけています。いただいたご意見については、関係部局の連携のもと、取組みを検討する際の参考とさせていただきます。</p>

指針全体に関するご意見:22件

No.	意見の概要	本市の考え方
21 続き	<p>移民を招くより、今後の発展を目指すためにも地域集約・再編・インフラの修繕を最優先させるべきだ。今後十年でそのインクルーシブになるインフラを整備することに専念して欲しい。また、インフラも個人のプライバシーや尊厳を守る安全で快適なもの(間違っても男女別スペースの集約などはやってはいけない)など、必要なものは絶対削減してはいけない。今後の発展の為に具体的な数値目標(例えばインクルーシブ都市化達成率)などを設定し、着実にクリアして欲しい。</p>	<p>(p15に記載)</p>
22	<p>ダイバーシティを日本語で書いてほしい。ここは日本なのだから。市民がみな、読んで理解できる説明が欲しいが、要は、外国人から選ばれる街作り、外国人が安心して暮らせる街作り、少数の権利が、その他大勢の権利より尊重される街作り。私にはそう聞こえる。欧米は、行きすぎた共産主義と移民受け入れでボロボロになり、回帰しているのに、岸田からの流れの石破政権も、外国人は宝の流れを変えず、日本人のための政治をせず、日本人から搾取する政治を進めている。仙台は市長が左側であるから、市民が意識しない間に、何が進行していくのかとても不安に思う。世界の時代に逆行する、見かけは綺麗な、ダイバーシティは、仙台にも、日本人にも不要。</p>	<p>ダイバーシティをめぐる背景や状況は各国で異なり、世界ではさまざまな事例があるものと存じます。都市政策としてのダイバーシティ推進に関するご意見の一つとして受け止めさせていただきます。</p>

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
23	<p>支援を受けたことがある元当事者の方がボランティアに加わることがあり、当事者性の強さを感じる。当事者に光を当て、その人たちに次に向かう力を与えるようなまちづくりを望む。女性は子供を通じて地域と関わったり、共感性が高い面で、他者とつながる力があると感じるので、もっと女性が活躍できる仙台になってほしい。今の中高生はダイバーシティの考えが浸透しているが社会に出たときに旧態依然とした空気に染まってしまうのが心配。</p>	<p>ダイバーシティまちづくりについては、当事者であった方を含め当事者が関わることが重要と考えており、中間案においても基本的理念等に位置づけています。女性の活躍に関する施策を含め、具体的な取組みにあたっては、いただいたご意見なども参考とし、関係部局の連携のもと、進めてまいります。</p>
24	<p>男女の話題になるといつも女性ばかり出てきて話をするが、男性にも出てきてほしい。女性活躍という視点では、子育てが大変というネガティブな話題が多いが、もっとポジティブな発信があってもいいのでは。</p>	<p>多様な主体の参画はダイバーシティまちづくりにおいて重要な点と考えており、中間案においても基本的理念に位置づけています。いただいたご意見については、関係部局の連携のもと、取組みを検討する際の参考とさせていただきます。</p>
25	<p>”ちがい”に配慮するのではなく、誰もが使える制度・サービスを作るよう意識したらいいのではないか。</p>	<p>誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの考え方を施策に取り入れることは重要であると考えており、中間案においても視点1に位置づけています。推進指針に基づき、さまざまな施策に取り組んでまいります。</p>

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
26	<p>(日本国籍の子も含め)外国につながる子どもへの支援は重要と考えており、また今心配をしている分野でもある。教育の課題はとても手がかかる。「誰か取り残されていないか?」という視点で引き続き考えていければよいと思う。中間案では留学生の増加が強調されているが、労働者層も増えていくのが実態ではないだろうか。</p>	<p>ダイバーシティまちづくりの推進においては、労働者層の外国人を含めたあらゆる立場の方の不利益をなくすことや、ちがいが尊重されることが基本と考えており、中間案においても視点1、視点2に位置づけています。いただいたご意見については、関係部局の連携のもと、取組みを検討する際の参考とさせていただきます。</p>
27	<p>一人一人きめ細かに対応することも大切だが、傾聴しすぎて相手の自己中心的な主張ばかりになってしまっていないかということもあり、バランスが難しい。こうしたことでマジョリティ側の不安が出てくるのかもしれない。マイノリティ側の努力を求めていく必要もあるのではないか。</p>	<p>ダイバーシティ推進会議の委員より、いわゆる「マジョリティ」側の不平等感や不安に対応することや意義ある意見や考え方にも着目していく必要があるとのご意見をいただいております。中間案においても視点1、視点2に位置づけています。いただいたご意見なども参考にしながら調和のとれたダイバーシティまちづくりを進めてまいります。</p>
28	<p>視点1と3が好き。助けてもらうことは助けることと同じくらい価値があることを広めてほしい。</p>	<p>柔軟で配慮ある制度やサービス等を整えることはダイバーシティ推進の基本であり、また、今後は、ちがいをプラスに変える視点を持つことが重要であると考えていることから、中間案において視点1、視点3を位置づけたところです。いただいたご意見なども参考にしながらダイバーシティまちづくりを進めてまいります。</p>

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
29	<p>パワーバランスが異なる状況は平等な取組では是正できない。公平な取り扱いというのを意識してほしい。マジョリティ特権という考えがあって、マジョリティの人は労せず手に入れたりアクセスしたりできるものでも、マイノリティの人は多くのハードルを乗り越えなければならないことがある。平等にアクセスする機会を提供していると思っているものでも、マイノリティの人がそこにアクセスするためには多くの見えない壁があることに気づいてほしい。</p>	<p>ちがいにより不利益を受けたり、排除されたりすることのない社会を目指す取組みにおいて、公平性を意識することは重要であると考えており、中間案においても視点1に位置づけています。研修機会の充実等により、推進指針の内容について職員の理解が深まるよう取組んでまいります。</p>
30	<p>人はコミュニティを作りがちでそこが孤立してしまうと様々な問題が起こる。そこに入っていったコミュニケーションを取っていけると、ちがいへの理解を進めるベースになるかもしれない。</p>	<p>ちがいへの理解を深めるにあたっては、ちがいのある人同士の対話や交流の場が必要であると考えており、中間案においても視点2に位置づけています。いただいたご意見なども参考にしながらダイバーシティまちづくりを進めてまいります。</p>
31	<p>児童館では、「ちがいを面白がる」ことに力を入れている。日本では周りと同じことが求められるため、ちがいを面白がるためには訓練が必要だと思っている。</p>	<p>互いを尊重し、ちがいを受け入れ、認め合うためには、さまざまな学びや体験の場、ちがいのある人同士の対話や交流の場などをつくっていく必要があると考えており、中間案においても視点2に位置づけています。いただいたご意見なども参考に、取組みを進めてまいります。</p>

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
32	外国人の問題については、現場の視点が大事。ローカルな空気を伝える場が必要だが、市と留学生の交流機会がほとんどないのではないか。研究者や留学生と働きに来ている人とでは課題が違うと思う。	ダイバーシティまちづくりにおいては、一人一人の価値観や意見・考えなどを理解しようとし、互いに尊重されることが重要であると考えており、中間案においても視点2に位置づけています。いただいたご意見なども参考にしながら、外国人の受け入れ環境整備をはじめ、ダイバーシティまちづくりを進めてまいります。
33	外国人の受け入れについては、法の問題と文化の問題を分けながら進めていかなければならない。文化の違いは互いに理解していかなければならない。	ダイバーシティまちづくりにおいては、一人一人の価値観や意見・考えなどを理解しようとし、互いに尊重されることが重要であると考えており、中間案においても視点2にこのような考え方を位置づけています。いただいたご意見なども参考にしながら、外国人の受け入れ環境整備をはじめ、ダイバーシティまちづくりを進めてまいります。
34	「やさしい日本語」の取り組みは、「ちがいへの理解や尊重」というよりは日本語がわからない方にわかりやすく伝えるという側面が強いので「不利益をなくす」や「公平な対応」に近い。視点2の取り組みの例示としては「多文化共生講座」が適当。	ご指摘を踏まえ、視点2の取り組みの例示を変更いたします。

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
35	<p>マジョリティの人は「何かが変わることでどうなるのか」が見えないから反対するのではないか。到達点を示すと反応が変わるのではないか。</p>	<p>ダイバーシティ推進会議の委員より、ちがいを尊重することで生まれるさまざまな変化に対し、市民が不安を覚えることのないよう丁寧な説明に努める必要があるとのご意見をいただいております。中間案においても視点2に位置づけています。いただいたご意見なども参考にしながら調和のとれたダイバーシティまちづくりを進めてまいります。</p>
36	<p>仙台市内で英会話サークルを運営している。日本人、外国人ともにいろんな方とお話する中で、いくつか気づいたことがある。</p> <p>(1)日本人の中でも、仕事や家庭の都合で仙台(東北)に越してきた方が仙台の方と接する機会に乏しい。</p> <p>(2)参加者の日本人の中には英語を使う機会や国際交流の機会がなかなか無いとおっしゃる方も多く、異文化という多様性に関して言えば、きっかけを見つけるのが難しい状況である。</p> <p>(3)外国人の間でも、ワーキングホリデーや留学などの短期滞在(1年未満)の方と、仕事のため長期で滞在する方で、国際交流イベントへの参加意欲やアプローチ方法に違いがある。</p> <p>(次ページへ続く)</p>	<p>互いを尊重し、ちがいを受け入れ、認め合うためには、さまざまな学びや体験の場、ちがいのある人同士の対話や交流の場などをつくっていく必要があると考えており、中間案においても視点2に位置づけています。いただいたご意見については、関係部局の連携のもと、取組みを検討する際の参考とさせていただきます。</p>

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
36 続き	<p>前者のグループは短期滞在用の共同住居や学生寮に住んでいることが多く比較的口コミや掲示などで情報を得られやすい一方で、後者のグループは国際交流イベントなどの情報は能動的に探さなければ触れられない環境にあると考えられる。</p> <p>(4)国際交流の推進は各コミュニティのリーダー同士が繋がるのが大切だと考える。コミュニティ毎にハブとなっている人物同士が繋がることで、情報の共有が進みより多くの関心のある人に情報が行き届く。国籍ごとにコミュニティが存在するケースもあるので、それぞれのグループの代表同士が交流してより良い施策を議論する場があっても面白いのでは。</p>	(p21に記載)
37	<p>掛け合わせによるイノベーションは大事で、アメリカでイノベーションが生まれているのは多様性によるものだろう。スタートアップと既存企業という企業の形もダイバーシティであり、それが融合することでイノベーションが起きて新しいサービスに繋がっていくのでは。</p>	<p>企業の競争力強化に向けては、多様な人材の自由な発想を取り入れながら、新たな価値創造につなげていくことが重要と考えており、中間案においても視点3に位置づけています。ちがいを掛け合わせるによりイノベーションを生み出していけるよう、具体的な施策に取り組んでまいります。</p>
38	<p>若い経営者になったことを経機に、女性社員の制服をやめるといった変化があり、世代もひとつの要因ではないかと考えている。若い人や外から入ってくる人に期待したい。若いうちからダイバーシティや人口減少といった日本の状況を教えていかないと変わらないのではないかと。</p>	<p>企業の競争力強化に向けては、多様な人材の自由な発想を取り入れながら、新たな価値創造につなげていくことが重要と考えており、中間案においても視点3に位置づけています。いただいたご意見なども参考にしながらダイバーシティまちづくりを進めてまいります。</p>

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
39	<p>当社の課題の一番は人材定着、特に女性。今は女性活躍ということだけでなく個性やいろいろな価値観を活かすという段階にきていると思っている。外国人の受け入れは一回やって終わりではなく継続的にやることで進んでいく。就職の際に地方から人が流れてしまうのは魅力的な仕事がないという先入観があるからではないか。仙台らしいダイバーシティの中でそういう仕事があるということを出せるのではないか。</p>	<p>企業の競争力強化に向けては、多様な人材の自由な発想を取り入れながら、新たな価値創造につなげていくことが重要と考えており、中間案においても視点3に位置づけています。いただいたご意見なども参考にしながら、具体的な施策に取り組んでまいります。</p>
40	<p>日常的に多様な人が集まれる場があるとよい。</p>	<p>ダイバーシティまちづくりの推進にあたっては、多様な人々の対話や交流の場づくりが重要であるとと考えており、中間案においても視点3に位置づけています。いただいたご意見につきましては、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
41	<p>製造業は高齢化が進んでいると言われるが、高齢の方でも仕事に従事できるような方法を考えていくとよい。働き手が減る中、工場の24時間365日稼働などこれまでの当たり前をやめてみることも重要。自社では、女性社員の仕事と子育てを両立させるため、働く時間と求める成果の整理も行った。仕事は一人一人役割があって、その形は同じでなくてよい。平等ではなく公平に評価される組織に変えていく必要があり、トップダウンではなく、社員たちに考えてもらいながら自分ごとにしてもらうことも重要。</p>	<p>企業の競争力強化に向けては、多様な人材の自由な発想を取り入れながら、新たな価値創造につなげていくことが重要と考えており、中間案においても視点3に位置づけています。具体的な取組みにあたっては、優れた事例の発信なども検討しながら進めてまいります。</p>

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
42	<p>仙台市のダイバーシティまちづくりの中で、外国人受け入れというのは進んでいない部分ではないか。「安心して住み続け活躍できるまち」を目標としているが、できている部分もたくさんあって、できている・できていないを分析した上で目標設定をしてもよいのではないか。</p>	<p>ダイバーシティまちづくりの推進において、実態の見える化は重要であると考えており、中間案においても視点4に位置づけています。ダイバーシティまちづくりの指標となるさまざまな分野の幅広いデータをデータブックとして取りまとめ、施策に生かしてまいります。</p>
43	<p>すべての人が寄り添って、子供や高齢者の気持ちにこたえて、地域社会を支え合っていくことが重要。</p>	<p>誰一人取り残されない社会の実現に向けては、地域の中にさまざまなつながりや支えあいの仕組みを作ることが重要であると考えており、中間案においても視点4に位置づけています。いただいたご意見なども参考にしながらダイバーシティまちづくりを進めてまいります。</p>
44	<p>さまざまな場面で取り残されている子どもに遭遇する。例えば不登校児でいうと、4割はどこにもつながっていないとの調査もあり、多様な学びの選択肢がない子が増えている印象がある。取り残されるおそれがあるという点では指針の視点4に関わってくるのではないだろうか。義務教育が終わった後の若者世代へのサポートはまだまだ足りていないと感じる。</p>	<p>取り残されている人への気づきや支援を広げていくことはダイバーシティまちづくりにおいて重要な点と考えており、中間案においても視点4に位置づけています。いただいたご意見なども参考にしながら、具体的な取組みを進めてまいります。</p>
45	<p>児童館の外国語対応では、窓口で無料の翻訳アプリを使用しているが、もっと良い機器があると良い。外国人の利用が多いスーパーなどにも翻訳アプリを置き、市のSNSで発信してはどうか。</p>	<p>デジタル技術の活用は、公平性の確保やアクセシビリティの向上に役立つものと考えており、中間案においても共通の視点に位置づけています。いただいたご意見については、関係部局の連携のもと、取組みを検討する際の参考とさせていただきます。</p>

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
46	外国人対応では、書類の翻訳作業が大変。日本語を簡単な表現にしてもらっただけでもだいぶ対応しやすくなる。オンライン化やデジタル化は外国人自身が翻訳機能などを活用できるので、よいアプローチだと思う。	デジタル技術の活用は、公平性の確保やアクセシビリティの向上に役立つものと考えており、中間案においても共通の視点に位置づけています。いただいたご意見については、関係部局の連携のもと、取組みを検討する際の参考とさせていただきます。
47	デジタルという言葉の解釈にあたり、最先端というイメージだけでなく、もっといろいろなことを享受しているし、さまざまな可能性を秘めていると思っている。多言語化といった部分についてはデジタルが非常に必要だが、アナログの心と心という部分も大事ではないだろうか。	デジタル技術の活用は、市民の利便性向上や市民参加プロセスの選択肢を広げることにもつながるものと考えており、中間案においても共通の視点に位置づけています。対面におけるコミュニケーションも不可欠と考えており、対話・交流の場づくりなどを進めてまいります。
48	ダイバーシティの地域への浸透が課題。人ごとではなく自分ごとにしていく必要がある。大きな企業から小さな企業と、広がっていかねばならないと感じている。	人口減少や少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、都市が持続的に成長するには、誰もが活躍できる環境の整備が必要であると考えています。推進指針に基づき、さまざまな施策に取り組んでまいります。 また、具体的な取組みにあたっては、優れた事例の発信なども検討しながら進めてまいります。
49	昔は外国人は珍しかったが、今は当たり前という感じになっている。自社は女性も多く、年齢も様々、階層的ではなくチームでやっていかなければならないと思っている。人手不足により外国人も採用する中で、新たな気づきやメリットもあると実感している。ダイバーシティという用語に対して自分ごとになっていない日常があると思う。	人口減少や少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、都市が持続的に成長するには、誰もが活躍できる環境の整備が必要であると考えています。推進指針に基づき、さまざまな施策に取り組んでまいります。

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
50	外国人が情報を取りに行く拠点が他地域にはあるが仙台には足りていないと感じる。	柔軟で配慮ある制度やサービス等を整えることはダイバーシティ推進の基本であると考えています。いただいたご意見につきましては、今後の施策の参考とさせていただきます。
51	東北大学の留学生は大学のサポートがあるが、住みやすい街になるには、それ以外の外国人へのサポートも重要。仙台は外国人から災害のイメージを持たれているが、仙台らしさという点では防災の強みをアピールしてもよいのではないかと。	柔軟で配慮ある制度やサービス等を整えることはダイバーシティ推進の基本であると考えています。いただいたご意見なども参考にしながらダイバーシティまちづくりを進めてまいります。
52	マイノリティ・マジョリティというのは指針に書いてあるよりももっと流動的で身近で複雑であることを理解する必要がある。マジョリティ特権で得た力を社会を変える方に使えるとよいと思うが、変えるべき社会の方向性みたいなものが見えていないから変化することに対して不安になっていると思っており、それが見えればその力を社会のために使えるのではないだろうか。	いわゆる「マイノリティ」と「マジョリティ」の流動性や、ダイバーシティ推進に伴う変化への不安感に対する対応といった点については、ダイバーシティ推進会議の委員よりご意見をいただいたところであり、さまざまな機会を通じて理解促進を図っていく必要があると考えています。いただいたご意見なども参考にしながら、具体的な施策に取り組んでまいります。
53	地域や企業の男性の中には女性にもかかわってほしいと思っている人もいると思う。そういう人の声をどうやって周りに届けるのかというのを考えたほうがよいのでは。変えるのではなく気づくということが重要なのでは。	ダイバーシティまちづくりにあたっては、一人一人にどのような価値観や意見があるのかを理解することが重要であると考えています。いただいたご意見なども参考にしながら、関係部局の連携のもと、具体的な取組みを進めてまいります。

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
54	都市の今後を考える際に、視点2、視点3はとても重要だと思う。この都市(仙台)は、政宗公の時代から、多様性を重視してきた街だと思う。歴史から説明を始めることはとても良い。異なる意見、考え方の人々と話し合うことで、このような指針はよりブラッシュアップされていくと思う。	仙台の歴史・文化や、市民協働といった都市個性をダイバーシティまちづくりの推進力にするとともに、さまざまな人が参加できる対話・交流の場を設けながら、多様な価値観や視点をまちの力に変えていくため、具体的な取組みを進めてまいります。
55	今日、一番町を歩いていたら、ベンチがあるけど、そのベンチの角があぶない。かどがあり、目の見えない方がぶつかっていたので円にした方が良い。	いただいたご意見については、関係部局の連携のもと、取組みを検討する際の参考とさせていただきます。
56	障害児 障害者の医療費助成や福祉(デイサービスや手当、ショートステイ)の所得制限を全廃して福祉から外さない、共生社会を作ってほしい。仙台の福祉は良くありません。所得制限は差別で不公平です。	ご意見として承ります。
57	さまざま問題点(理解)がありますがあきらめず、声を大にすることが完全参加の平和と福祉につながっている。自分にできる事を積極的に行動できたらと切に思う。	いただいたご意見なども参考にしながらダイバーシティまちづくりを進めてまいります。
58	大学でまちづくりに関する授業を受けたところ、クリエイティブなまちになると活発化するというようなことを習った。植物を豊かにしたり、狭い道や古い建物をのこして再利用することが良いと思う。	いただいたご意見につきましては、今後の施策の参考とさせていただきます。

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
59	私は視覚障害者だが、地下鉄の案内板が見にくくなってきた。案内板を大きくしたり見やすくしてほしい。	柔軟で配慮ある制度やサービス等を整えることはダイバーシティ推進の基本であると考えています。いただいたご意見については、関係部局の連携のもと、取組みを検討する際の参考とさせていただきます。
60	車いすの人にとっては、低いところに案内やボタンがあるといい。また、道幅も広いといい。店の通路もすれちがうのが楽な道幅だといい。	柔軟で配慮ある制度やサービス等を整えることはダイバーシティ推進の基本であると考えています。いただいたご意見については、関係部局の連携のもと、取組みを検討する際の参考とさせていただきます。
61	点字ブロックがあるが、上に物がのってたり、頭上に枝があったりする。実際に障害者が使用する前提で、いろいろな制度を作してほしい。	柔軟で配慮ある制度やサービス等を整えることはダイバーシティ推進の基本であると考えています。いただいたご意見については、関係部局の連携のもと、取組みを検討する際の参考とさせていただきます。
62	西公園をダイバーシティパークとし、車路で分断された南と北を大きな橋でつなぎ、商業と文化施設の場としてはどうか。	ご意見として承ります。
63	ダイバーシティまちづくりが実現するとどんなに素晴らしいまちになるのか、イメージを持ってもらうことが大切だと思う。そして、子供達の教育の場などで、その素晴らしさを実感できるような体験ができれば、自然に広がっていくのではないか。	市民の皆様が多様性に触れ、ダイバーシティまちづくりについて理解していただけるよう、今後とも、イベントや啓発事業などを実施してまいります。いただいたご意見については、関係部局の連携のもと、取組みを検討する際の参考とさせていただきます。

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
64	細すぎる道の幅を広くしてほしい(車いすのため)。	いただいたご意見については、関係部局の連携のもと、取組みを検討する際の参考とさせていただきます。
65	仙台でもっとフラットに明るいイベントが開催されるといいと思う。今回(仙台ダイバーシティフェスタ2024)のように参加型の方が理解力も自然と増え、優しい街づくりにつながると感じる。	市民の皆様が多様性に触れ、ダイバーシティまちづくりについて理解していただけるよう、今後とも、イベントや啓発事業などを実施してまいります。いただいたご意見なども参考にしながらダイバーシティまちづくりを進めてまいります。
66	休けい所を増やすといいと思う。	ご意見として承ります。
67	視点3の「ちがいから生まれる多様な価値観、視点をまちの力に変える」という部分は、話ばかりが先行している気がする。「安心してちがいを表現できる」とあるが、今の教育の中でできているのだろうか。	安心してちがいを表現できることは、多様性のプラス面が機能するための土台であると考えています。いただいたご意見については、関係部局の連携のもと、取組みを検討する際の参考とさせていただきます。
68	美術館、まちの中の芸術作品が増えると、仙台のまちがゆたかになると思う。	ご意見として承ります。
69	スロープを増やすともっと良くなると思う。その人その人に合わせて平等だけでなく公平な対応にするという方針がすてきだと思った。	平等だけでなく公平な対応を意識しながら、ダイバーシティまちづくりを進めてまいります。

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
70	<p>仙台市とアフリカコミュニティとの間で文化交流を促進するために、アフリカ宮城協会(AFAM)のような外国人団体を支援することが重要だ。AFAMの活動を支援するための具体的な提案は以下のとおり。</p> <p>1.文化イベントやプログラムの支援:市は、文化イベントやセミナー、フェスティバルに対する資金援助や物流面でのサポートを提供すべき。これにより、アフリカの伝統、芸術、音楽、料理などを紹介し、アフリカコミュニティと地元住民との交流を促進し、相互理解と尊重を深めることができる。</p> <p>2.教育機関との連携促進:市は、学校と外国人団体が協力して、教育的な取り組みを行うことを奨励すべきだ。外国人団体の文化活動やプログラムを学校のカリキュラムに取り入れることで、学生たちは直接アフリカの文化を学び、プレゼンテーションやパフォーマンス、ワークショップを通じて経験することができる。</p> <p>3.教育資材の活用:アフリカ文化に関する雑誌は、教育の質を向上させる優れた資源だ。すでに仙台市と宮城県内の学校、図書館、公共の読み物スペースに無料で配布されているものを、教室での参考資料として積極的に活用することができる。</p>	ご意見として承ります。

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
70 続き	<p>アフリカの文化や歴史、現代の問題に関する豊富な内容は、学びの中で多様な視点を育むことに役立つ。</p> <p>4.地域の教育機関との協力促進:外国人団体と地元の学校や大学との協力を奨励し、文化交流をさらに深めることができる。例えば、ゲスト講義や語学交換プログラム、アフリカの歴史や文化、世界的な問題に関する共同ワークショップを実施し、3の教育教材を補助教材として使用することができる。これにより、文化的な橋渡しができると同時に、教室内で多様な視点を促進することができる。</p> <p>5.教育教材の配布と普及の支援:市は、教育教材の配布ネットワークの拡大を支援し、さらに多くの教育機関や公共の場に届くようにすることができる。地域のイベントやワークショップで積極的に紹介し、アフリカ文化への認識と理解を深めることで、仙台市の教育環境のインクルーシブ化に貢献できる。</p> <p>6.インクルーシブ教育の促進:多様な背景を持つ学生たちが尊重され、その文化が認識される教育環境を支援する取り組みを推進してほしい。アフリカを含むさまざまなコミュニティの貢献を強調することで、学生たちはよりインクルーシブで尊重に満ちた、グローバルな視野を持つ世代に成長することができる。</p>	(p30に記載)

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
70 続き	これらの提案を通じて、仙台市は多文化共生と理解を促進し、アフリカコミュニティとその文化が地域社会に深く根付く支援を行うことができる。	(p30に記載)
71	<p>「挑戦を続ける、国際社会から選ばれる都市」を目指すとのことだが、そのために必要と思う提案をしたい。まず、一番は英語力。今の日本の教育では話す力がのびない。丁寧な発音の勉強が必要であり、発音ができれば、聞く力も鍛えられる。</p> <p>学生だけではなく、社会人も流暢に英語を話せる人は少数であり、学びなおしできる機会が重要となっている。また、留学生や外国人住民も日本人の多くが日本語を話すため、意思疎通が困難となっていることが多いと思う。特に、児童など義務教育から来日した子ども達は、言葉の壁により学習が難しく、学校や教師への負担が大きくなることが予想される。その子ども達が日本の子ども達同様に高度な学習機会を得られるよう、市として支援するべきと考える。英語力の問題のほかに、国際的に通用する精神を持つ事も必要。日本人は自分の意思を伝えることが苦手であり、その為にはディベートやプレゼンテーション能力を伸ばす必要がある。相手の要求に応えることも大切だが、時には決然とした態度を取らねばならない場面もあるだろう。お互いを尊重できるとは、相手を対等に見られること。都合のいい人だと思われたい、芯の強さも求められると考える。</p>	<p>国際理解教育・外国語教育や、外国人児童生徒の教育環境整備については、今後ますます重要になるものと考えています。いただいたご意見については、関係部局の連携のもと、取組みを検討する際の参考とさせていただきます。</p>

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
72	<p>5ページ「深層の違い」への配慮について、学業が終わっても必要な資格や知識を得たいと考えることがある。しかし、社会人として労働と学業を両立させていくのは難しいものだ。長期の有給取得や休職ができやすい環境さえあれば、資格取得等に専念しやすくなる。</p> <p>就労していても大学等に通うことに社会的理解が上がれば、学歴差を感じづらくなるのではと考える。その他、「配慮」という形でまとめられているが、「違い」つまり「個性」を言語化して伝えることができるかが多様性を生かせるかの鍵と考える。適切な言葉で相手に伝えることができれば、新たな共感をよび、成長を加速させることができる。相手への配慮も大切だが、自分の周囲との違いを冷静に分析できることが今後求められてくると考える。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>
73	<p>6ページ「障害のある方の活躍」について、まだまだ合理的配慮、つまり力を生かせる公平な支援というものが不足していると感じる。障害認定された方への支援は進んできているが、障害とされない「グレーゾーン」にいる方や、心身の定期的治療や回復期にある方の支援は本人の努力不足や社会不適合という形で排除されている。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>	<p>ご意見として承ります。</p>

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
73 続き	<p>特に精神障害や通院等で定刻どおりに就労することが困難な人、さらに子育てや介護などで家事や介助を担う者は急用などで休むことが多いため、やはり就労が困難となる。そのためには柔軟な勤務体制、余剰人員の確保、転勤の廃止等、雇用側が大きく変わらなければならないと感じる。昔は、終身雇用で雇用側が生活を担保する構造で安心して就労できる環境となっていたが、それも崩れた今、雇用側が双方の利害の状況を確認し柔軟に対応することで、不足する人員の確保等の改善をはかったほうが良いと思う。賃金上昇が大きく見込めない世の中、不要な長期時間的拘束は仕事効率の停滞をも招く。育児休暇の取得率を上げるというその場の目標よりも、そういった大きな改革を推進して行って欲しいと思う。</p>	(p33に記載)
74	<p>8ページ「誰もが安心して住み続け、活躍できるまち」は、いかに人材を地元企業に定着させていけるかだと思う。そのためには人材を育成していくことが重要。一人一人が社会に対して大きな期待と誇りを持てるような継続的な啓発と交流が必要と考える。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
75	<p>9ページ「不利益をなくす・可能な範囲で対応を進めます(合理的配慮)」の、合理的配慮の概念がまだ浸透していないため、行動に移しにくいのではと感じる。また、合理的配慮と過剰な要求とを区別する必要もあるように感じる。</p> <p>9ページ「公平な対応を意識する・必要な説明や周知を行う」に関して、その流れで差別禁止法を作る内容が他の自治体で散見されるが、差別行動を起こすものの根底には解決すべき問題が隠れていることを忘れてはならないと考える。</p> <p>病気を治療する、法を犯した者に更生を促す等、正常な行動、つまり衝突なくコミュニケーションが図れることを目指し、共に考える必要がある。禁止法などという上辺の措置を図るのではなく、理解や周知などの深部への対応を願う。</p> <p>10ページ「「ちがい」を尊重する」について、互いを理解することには時間がかかること、その違いを理解できない人や受け入れられない人を認めることも必要。たとえ否定的意見があったとしても、相手を尊重することはできる。これを理解しないと同調圧力が生まれてしまう。11ページ「ちがいは、克服しなければならないものではなく、価値あるもの」ということに繋がる考えであると思う。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>	<p>ちがいへの理解を進め、尊重することや、合理的配慮の考え方等については、研修機会の充実等により職員の理解を深めるとともに、各種啓発事業を通じて市民理解を進めてまいります。その他の点については、ご意見として承ります。</p>

基本的理念・視点に関するご意見:53件

No.	意見の概要	本市の考え方
75 続き	<p>10ページ「多様な食文化に対応した新メニュー」に関して、学食などの提供は理解できるが、これを義務教育の給食にすることに反対する。理由は、現在の教育現場では人材確保が深刻であり、この問題を専門的に解決する人材を確保することは難しいと考える。学校は勉強を教えるところであり、生徒の経済状況や家族構成、文化的背景の全てに配慮し管理するところではない。とくにヴィーガンやベジタリアンといった出自の文化に根付かないものの選択は、好き嫌いとの違いを説明できず、現在推進している食育から外れる方針だと思う。また、生育期の子ども達へのカロリー計算が非常に困難になると思われる。個別の弁当提供であれば可能だと思うが、給食センターが校内にある学校にとっては、温かい給食が提供できないデメリットは大きいと思う。</p>	<p>(p35に記載)</p>

推進体制等に関するご意見:5件

No.	意見の概要	本市の考え方
76	(ダイバーシティ推進にあたり)「ここを中心にやっていく」ということを明確にしておくとのよい。	推進指針は本市のさまざまな施策を検討・実施する際に盛り込むべきダイバーシティの視点等を取りまとめるものであり、具体的な取組みについては、今後、優先的に取組む内容などを推進指針とは別に取りまとめることを検討しています。
77	会社としてダイバーシティ推進の取り組みを進めてきた。トップの理解は必要だが、その下の組織長レベルの方々に理解してもらうのが難しい。構造的な差別があることを繰り返し具体的に示しながら伝えていくことが重要。組織に入るとその組織の考え方が受け継がれるので、どこかで変えなければならない。	ダイバーシティまちづくりの推進にあたっては、一人一人がその考え方を理解することが重要と考えています。研修機会の充実等により職員のダイバーシティへの理解を深めるとともに、各種啓発事業を通じて市民理解を進めてまいります。
78	推進体制として庁内の本部会議となっているが、行政の中だけでは今までと変わらない気がする。少し拡大して、外部の人も組み込んだような形のものを検討してはどうか。	幅広い市民のご理解は重要であり、ダイバーシティまちづくりの指標となるさまざまな分野の幅広いデータをデータブックとして取りまとめ、市民の皆様にも進捗状況を広く知っていただきながら、ダイバーシティまちづくりを進めてまいります。
79	職員の理解推進の取り組みを入れてほしい。仙台市はこれまで、バリアフリーのまちづくり、男女共同参画、市民協働を進めてきた。今回、加えてダイバーシティ推進に取り組むに当たり、職員の理解が欠かせない。このためには、職員理解の推進のための研修などの取り組みが必要と考える。	ダイバーシティまちづくりの推進にあたっては職員一人一人がその考え方を理解することが重要と考えており、職員研修などの実施を検討しているところです。こうした内容を追記する方向で、記載内容を検討いたします。

推進体制等に関するご意見:5件

No.	意見の概要	本市の考え方
80	<p>市職員向けの指針として、市職員が持つておくべき視点であるということが大事。それぞれの取組を何のためにやっているのかということを理解しておく必要がある。例えばこどもに関する事業を実施するときこどもの意見を聞くのは、こどもが当事者であるからであって、市役所のアリバイ作り(聞くことが目的)ではない。職員一人一人の考え方を変えていかないといけないと思う。</p>	<p>ダイバーシティまちづくりの推進にあたっては、職員一人一人がその考え方を理解することが重要と考えています。研修機会の充実等により職員のダイバーシティへの理解を深める取組みを進めてまいります。</p>

その他のご意見:18件

No.	意見の概要	本市の考え方
81	<p>男女格差解消といった段階からダイバーシティまで取り組みを広げる自治体は珍しいのではないか。「多様性が増す」と書いているが、書かれている話題が大学・留学生・研究者中心になっている。今いる市民にもどのような変化があって、「多様性が増す」につながるのかわからない。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、本市におけるダイバーシティ推進の背景がより分かりやすくなるよう記載内容を検討いたします。</p>
82	<p>仙台に生まれ育って、仙台らしいところは誇りに思っているので、それを活かした「仙台らしいダイバーシティまちづくり」の推進というのは腑に落ちる表現。「掛け合わせ」というキーワードもそのとおりだと感じている。いろいろなものの掛け合わせの中でとんがりが生まれてくると思っている。</p>	<p>仙台の歴史的・文化的背景や都市個性への誇りと愛着を土台に仙台らしいダイバーシティまちづくりを進めることが重要であり、中間案においても基本的理念に位置づけています。ちがいを掛け合わせるによりイノベーションを生み出していけるよう、具体的な施策に取り組んでまいります。</p>
83	<p>5ページ「4つの類型」は、固定されたものというより時と場合によって常に変化しているものと考えた方がいいと思う。棲み分けは隔離ではなく、安全地帯と考え、必要なものであると思う。全てを受け入れることは困難であり、この4つを行き来することで、お互いの文化・信条的アイデンティティを衝突させることなく過ごせると思う。マジョリティとマイノリティ、双方負担のある介入方法では関係構築の妨げになるため、時間をかけた信頼関係構築が望ましいと考える。</p>	<p>「4つの類型」は、社会におけるちがいの受け入れ方を類型化したものであり、ご指摘のとおり、ちがいの内容や社会的背景等、さまざまな要因により対応は変化するものと考えています。こうした趣旨が伝わるよう記載内容を検討いたします。</p>

その他のご意見:18件

No.	意見の概要	本市の考え方
84	7ページ「国際的に共通するダイバーシティの定義はありません」とあるが、古くからこの地の文化を築いてきた日本、そして仙台というアイデンティティを曲げることなく、誰とでも対等な関係性を構築できる都市であることを願う。	仙台の歴史・文化・都市個性を尊重したダイバーシティ推進が重要であると考えており、中間案においても基本的理念に位置づけています。推進指針に基づき、さまざまな施策に取組んでまいります。
85	「ちがい」にも色々あり、どの程度までのちがいのことを指しているのか分からないとサービス検討につなげることが難しいのではないか。	ダイバーシティ推進において扱われる「ちがい」は、性別、年齢といった「表層のちがい」のほか、価値観といった「深層のちがい」も含まれ、幅広いものと認識しています。いただいたご意見を参考にしながら、研修機会の充実等により職員の理解を深め、ダイバーシティの視点を織り込んだ施策の実施につなげてまいります。
86	仙台は、いわゆるインバウンド的なものに支配されていない所が良いと思うので、あるべきダイバーシティ像を明確に示すことが出来れば良いと思う。	ダイバーシティの推進により目指す都市の姿は、都市の背景や時代によって変化するものと考えています。推進指針に基づき、仙台にふさわしい多様で調和のとれたまちを目指して実践を重ね、仙台らしいダイバーシティまちづくりを目指してまいります。
87	言語化はとても難しいと思うが、仙台市への誇りや愛着とは具体的にどのようなことを指しているか、私たちが仙台を好きだということについて、どういうふうに、どういう点で、というところを市民に説明できるようにしておいた方がよいと思う。	本市には、多様性を受容する歴史的な土壌や、市民の皆様とともに育んできた共生のまちの理念が受け継がれており、中間案においても「仙台のまちづくりとダイバーシティ」としてまとめたところです。こうした本市の都市個性を十分に踏まえ、ダイバーシティまちづくりを進めてまいります。

その他のご意見:18件

No.	意見の概要	本市の考え方
88	<p>生活圏拡張運動(バリアフリーまちづくり)について触れられているが、車いすの方が街に出ようという取組は仙台から始まったので、歴史を振り返るという意味でも、3~4ページ(仙台のまちづくりとダイバーシティ)の記載は、仙台のやってきたことの良さをアピールできると思うので、とても良いと感じた。</p>	<p>本市には、多様性を受容する歴史的な土壌や、市民の皆様とともに育んできた共生のまちの理念が受け継がれており、中間案においても「仙台のまちづくりとダイバーシティ」としてまとめたところです。こうした本市の都市個性を十分に踏まえ、ダイバーシティまちづくりを進めてまいります。</p>
89	<p>仙台の良いところは、市役所と市民との距離の近さだと思う。市民と膝詰めで一緒になって話し合いをしながらさまざまなものを作り上げてきたところが、まさにダイバーシティに通じる部分だと思う。泥臭いところに仙台市の良さがあると思うので、そこも入れ込む必要があるのではないだろうか。若い人にとって、ダイバーシティはもはや当たり前なのではないだろうか。小中学生など、若い人の意見をきちんと聞く機会を持つことも大事だと感じる。</p>	<p>本市では、古くから市民運動と行政との連携の中でバリアフリーまちづくりが進められるなど、多彩な市民活動が展開され、東日本大震災においてもこうした市民力が復興の原動力となりました。このような市民協働の取組みの積み重ねを生かすとともに、若い世代を含め、多様な人々の意見を聞く機会を積極的に設け、ダイバーシティまちづくりを進めてまいります。</p>
90	<p>このパブリックコメントは、外国人や視覚障害、知的障害の方も内容を確認できて、意見を出せるようになっているか。</p>	<p>幅広い方からのご意見をいただけるよう、ご指摘を踏まえ、アクセシビリティに配慮した形式でホームページに掲載しました。</p>

その他のご意見:18件

No.	意見の概要	本市の考え方
91	<p>一件一件に返信する気もないであろうに意見提出者を特定しよう、あるいは記名とすることで少しでも意見を減らそうという姑息な考えが見え隠れするので、住所や氏名等を書かず匿名で提出させていただく。匿名で提出したからといって、結果集約からは外さないよう要請する。</p>	<p>パブリックコメント手続きにおける住所や氏名等の記載につきましては、仙台市パブリックコメント手続きに関する実施要綱において、責任あるご意見をいただく観点から、原則として住所及び氏名の記載を求めるものとの定めがあり、本市で実施するパブリックコメントでは、ご意見をいただく際に住所と氏名の記載をお願いしています。一方、パブリックコメント手続きの趣旨を鑑み、仙台市パブリックコメント手続きに関する運用指針において、住所及び氏名の記載がない場合であっても意見を受け付けるものとしています。</p>
92	<p>新しい仙台市役所のまちづくりの中にダイバーシティの面が欲しい。配慮の前にちがいを正しく受け入れること、仙台市は出来ているか？</p>	<p>いただいたご意見につきましては、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
93	<p>「SENDAI Global Startup Campus」、「仙台市×東北大学スマートフロンティア協議会」といった固有名詞は説明が必要ではないか。また、「ブースト」、「良質な交流」という文言が分かりづらいため、別な表現に改めてはどうか。視点2の①の記述が市民に関する内容と職員に関する内容が入り混じっているため、順番を入れ替えてはどうか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、用語解説の追加や表現の修正を検討いたします。</p>

その他のご意見:18件

No.	意見の概要	本市の考え方
94	<p>必要性や背景はよく理解できた。目指すことをどう行動や施策に示せばよいかの具体例があると、より理解が深まり行動に移せるのではと思った。</p>	<p>ダイバーシティまちづくりの推進にあたっては、一人一人がその考え方を理解することが重要と考えています。研修機会の充実等により職員のダイバーシティへの理解を深めるとともに、各種啓発事業を通じて市民理解を進めてまいります。</p>
95	<p>ダイバーシティや多様性という言葉で一見新しいまちづくりにきこえるが、具体例が少ないと感じる。どこのどの分野で何をするのか内容がわかりたいと思う。仙台市は市民を守ることを第一に考えてほしい。</p>	<p>推進指針は本市のさまざまな施策を検討・実施する際に盛り込むべきダイバーシティの視点等を取りまとめるものであり、具体的な取組み項目は記載していませんが、今後、優先的に取組む内容などを推進指針とは別に取りまとめることを検討しています。</p>
96	<p>何をするにも仙台市は予算で進まないのが実状。せっかくの集客タイミング(ポケモンゴー、七夕、東北六魂祭)の時に発信、共有できる仕組みが必要。おのおのが活動している感もったいない。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>
97	<p>5ページ「ダイバーシティの変遷」のさまざまなちがいの図では、表層のちがいの例として障害の有無が挙げられているが、障害には外から見えにくいものも多く、こうした表現は無意識の思い込みにつながる面があるのではないか。</p>	<p>ちがいは、表層のちがいが深層のちがいに影響を及ぼすこともあり、ご指摘のとおり、障害は表層のちがいにのみ位置づけられるものではないと考えています。こうした趣旨が伝わるよう記載内容を検討いたします。</p>

その他のご意見:18件

No.	意見の概要	本市の考え方
98	9ページに限ったことではないが、英単語をそのままカタカナで語っているため、日本語として分かりづらい(ウェブアクセシビリティ、ユニバーサルデザインなど)。何を示すのか、具体的にどんなものなのか分からない言葉が多い。きちんと和訳された日本語で説明していただきたい。ここは日本である。	ご指摘の、カタカナ語や補足の必要な用語につきましては、用語解説をつけることといたします。